

社会情勢が変化しても「住民同士のつながり」は
普遍です！

会いたい。話したい。何かできないか？住民同士のつながりは、いつの時代も普遍です。「コロナ禍前からのつながり」と「コロナ禍での新たなつながり」をコーディネートしました。

A コロナ禍の中における助け合い活動

普段のつながり×住民主体の体制整備=コロナ禍の活動 ～ 温故知新とイノベーション～

● 大学生×福祉委員会×社協 普段のつながりに新たなつながり創出！

福祉委員が見守り活動時に生活支援情報と一緒にお届け(毎月)

大学生と福祉委員が手書きの手紙、福祉委員会で見守り活動で手渡し、SC⇒全体コーディネート

福祉委員会、大学生、NPO、地域包括支援C、社協(CSW、SC)で毎週ZOOM会議で検討。

SC ← 福祉委員会: 外出自粛で気が萎えている。
大学生: 外出自粛下だが力になりたい!

● 大学生の交流⇒スマホ講座 大学生も高齢者も社会参加！

大学生との交流が楽しかった♪ スマホの使い方？忘れた(笑) ※高齢者の感想

ZOOMで学生交流会！ ボランティア活動も案内！

大学生とZOOMで企画会議

● 地域検討会で生活課題を話し合い 活動の検討ではなく課題抽出・検討から！

民生委員、福祉委員会、デイサービス、福祉用具事業所、CSW、SC、地域包括支援C、自治会、福祉委員会、NPO、訪問看護、大学生、大学教員、薬局

新たに屋外での体操を創出！

誰に参画してもらおうか？も検討 ※吹田は2層SC、2層協議体未設置

● ICTツールの活用 施設の専門性で地域貢献！

保育園による、おもちゃ作り

高齢者施設による体操

取組内容

CSW、地域包括支援C、地域団体等と「地域検討会」を発足。検討会からスマホ講座、体操の場等を創出！

経過

外出自粛で高齢者の心身の状況が心配！ SC、CSW、地域包括支援C等での情報共有から開始。
※吹田は2層協議体は未設置。

きっかけ

コロナ禍で身近な集いの場が中止。身近な地域でのつながり再構築が必要！

取組内容

学生交流会で高齢者対象スマホ講座のボランティア活動を呼びかけ。ボランティアセンターも大学に周知依頼。地域検討会でスマホ講座を開催する際にコーディネート。

経過

学生有志に呼びかけて学生交流会について検討。社協(SC等)と学生有志の共催で学生交流会を開催。

きっかけ

大学生への食材支援時に「オンライン授業で交流がない」「ボランティア活動の機会がない」との意見があった。「1層協議体でも高齢者へのICT支援が必要！」との意見。

取組内容

高齢者施設、保育園の職員が体操、レクリエーションを紹介。大阪府内の社協で導入を進めているICTツールを活用して動画配信(動画撮影・編集はSC)。

経過

一緒に地域福祉活動を取組んできた施設連絡会の専門性を生かしたコンテンツ作成を相談。

きっかけ

コロナ禍、体操やサロン等の集いの場が中止。自宅で個人、家族で楽しめるコンテンツが必要！